

郷土を知る
むかしむかし

昔々の そお市

第79回



諏訪神社

～人と地域を結ぶ交流拠点～

生涯学習課 文化財・市史編纂室 ☎ 0986-76-8873

諏

訪大明神とは、長野県諏訪市の信濃国・諏訪大社を総本社とする、

全国に約1万社ある諏訪神社に祀られている神様です。一般的に「お諏訪さま」として親しまれており、武勇・風水・農業・狩猟の神様として、源頼朝や武田信玄など、歴代の武将から深く信仰されてきました。市内の諏訪神社は末吉町諏訪方蔵之町地区の県道501号線沿いの一の鳥居から、谷を越える参道を通り静かな森の中に位置しています。

平安時代末期、島津氏初代当主・忠久は、源頼朝の命による奥州合戦の際に諏訪大社で戦勝を祈願し、見事軍功を挙げました。これを機に薩摩・大隅・日向の守護に任命され、領内各地に分社を※勧請し代々島津家の守護神として崇められます。

室町時代中期、第9代当主・忠国は、領国内の諸豪族に不穏な動きが見られるために、自ら兵を率いて末吉亀鶴城に赴きました。その時、城内に勧請されたのが鹿兒島市坂元町（旧坂元村福ヶ迫）の諏訪大明神でした。

戦国時代に入り第14代当主・勝久は新たに福ヶ迫諏訪大明神下社を守護神として勧請し、城内の大明神とともに現在の位置に祀られました。

安土桃山時代によろしく、第16代当主・義久が領内を平定しました。このことにより、諏訪大明神はますます信仰篤い神様として崇められました。

江戸時代後期、火災により鳥居以外は消失しましたが、約40年後に修復されました。明治当初の神社整理の際には長田神社となりましたが、昭和初期に諏訪神社へと名称が戻り現在に至ります。

神社を中心に集落の交流も盛んに行われてきました。毎年4月の花見では弓道大会・牛の品評会・油竹登りなど、9月の十五夜では、子ども達が藁を集めて集落ぐるみで大綱を作り、綱引きや相撲が行われていました。地域の交流拠点のひとつだったと考えられます。

かつて武将が戦勝を祈願していた諏訪神社、近年では地元スポーツ少年団が初詣でに訪れてから、初練習に励む姿が初春の風物詩となっています。

※勧請＝神社の祭神を分けて迎えること

【アクセス】



曾於市史編さん情報局

市史編纂室ではまだまだ情報を探しています。

昔のお祭りの写真や情報なども貴重な資料となります。ご存じの方は生涯学習課までご連絡ください。

※お預かりした写真などは返却します。



綱作りの様子（昭和60年頃）



諏訪神社